

## 統合研究プログラム

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
<p>○統合研究プロジェクトを第4期計画として起こされたことに、深い敬意と期待を表明する。推進の困難さは想像するに余りある事業であるが、長くかかっても育てていかれることを期待する。</p> <p>○地域から世界におよぶ様々なスケールを対象として、持続可能社会の実現に関わるシナリオやロードマップの開発を目指して必要な課題が網羅されている。統合することによるプログラムとしての具体的成果が明確に示されることを期待する。</p> <p>○多元的あるいは統合的な評価が目標とされるが、評価指標を設定する場合に、さまざまなレベル(時間・空間・社会的領域)・ステークホルダー間でのコンフリクト・矛盾が出ることをどのように解消して、指標設定するのか？</p> <p>○どのような環境問題をどのように統合しようとするのか？</p> <p>○これまでも多くの試みがされているが、それらの試みとどのように違い、第4期での到達目標はどこまでを掲げているか？</p>
今後への期待など
<p>○地域特性を生かした社会実装支援のためにどのようなデータが必要か等の検討が望まれる。より一般化された方法論としての Decision making のプロセス・システム化を実現することを期待したい。</p> <p>○意思決定のための手順とそこで必要となる各種情報や解析評価の手法としてプロセス化されることが望まれる。</p> <p>○価値の定量化、幸福の定量化といったかなり哲学的なアプローチが持続可能性の表現の一つとして、本研究にも含まれるべきではないか。</p>

主要意見に対する国環研の考え方
<p>①環境問題のマルチスケールでの解析と解決、複数の環境問題を解くための将来シナリオの開発に向けての長期的な研究の第一ステージとして着実、かつ具体的な研究成果の発信を目指します。</p> <p>②価値観・利害関係の多様性がもたらすコンフリクト・矛盾はあるものと理解したうえで、異なるステークホルダーが有する価値観や利害関係を分析、把握、提示した上で、それぞれに比較考量・選択できるような、多面的多元的な論理の構築を目指します。</p> <p>③研究プログラムへの参加者の現状の専門性を考慮して、他の研究プログラムで分析される気候変動の緩和・適応をはじめ、資源循環、生物多様性・生態系保全、大気環境等について、複数の環境問題を同時に解決する研究、環境問題間のトレードオフを考慮したうえでの意思決定の支援を、研究プログラムの当面の優先課題として位置づけます。各研究分野のモデル手法の連結、関連因子のフィードバックの明示的な解析を目指しますが、まずは温暖化分野で蓄積のある社会経済シナリオ等の他の環境問題の検討、ならびに温暖化分野での大規模対策の実施が他の分野にもたらす波及影響の把握に取り組みます。</p> <p>④これまでの統合研究では、環境経済統合勘定に見られるような枠組の提示、ライフサイクルアセスメント研究での単一指標化といった様々な試みがあったことを体系的に整理しつつ、本研究プログラムでは、モデル解析の手法と理論のこれまでの研究蓄積を有効に活用して、現状と将来の社会と環境問題、および複合的な環境問題間の関係を論理的かつ可能な限り定量的に明らかにすることを目的とします。あるべき理想的な将来の姿を提示するだけでなく、環境問題の改善のプロセスそのものも明確にしていきたいと考えています。</p>

- ⑤研究成果の政策展開や社会発信でも領域別の問題の解決に向けた道筋の提示にとどまらず、複合的な環境問題の改善への道筋を明らかにしていくことを目指します。
- ⑥将来像の提示に関しては、ご指摘をいただいた通り、価値の定量化、幸福の定量化の論点の整理を行いたいと考えております。哲学的なアプローチについて外部研究者との連携を含めて研究の展開を検討して、視野の狭い研究に陥らないように十分留意、配慮いたします。